

活動名：第9回福島空港公園杯少年フットサル大会

日程：平成27年11月21日（土）～22日（日）

会場：福島空港公園緑のスポーツエリア フットサルコート

参加：U6・Gクラス 23名

帯同：ブルー熊坂コーチ、レッド小松コーチ、ホワイト渡辺コーチ

対戦相手：結果資料のとおり

結果：（16チーム参加）

ブルー：優勝

ホワイト：敢闘賞（第9位）

レッド：第10位

### 報告：熊坂コーチ（ブルー）

私が担当しましたFCアーブルーは6年生のリフティング回数上位7名でのチーム構成となりました。

リフティング回数上位という事もあり意識や技術の高い選手達です。

そんな選手達に1試合目が始まる前に「全勝で優勝しよう」と話しました。緊張やプレッシャーを感じてしまうだろうと思いましたがその中でどれだけ自分の力を発揮出来るのか、あえて話をしました。

どんなに素晴らしい技術を持っていても緊張やプレッシャーに負けてしまっただけでは意味がありません。精神的にも強くなって欲しいという願いと選手達なら必ず達成してくれると信じて・・・結果的には選手達以上に私自身がプレッシャーを感じてしまいましたが（笑）緊張でガチガチの試合あり、相手のプレスに苦しめられて思い通りにいかない試合ありと苦しい試合の連続でしたが見事に優勝を達成してくれました。

厳しい試合でも集中力を切らさずに粘り強く対応してくれました。ハーフタイムに指示を出すと短時間で理解し実践出来る適応力の高さをを見せてくれました。

またコーナーやキックイン等で自分達でアイデアを出し色々なパターンで楽しませてくれました。選手達の想像力は本当に素晴らしいものだと感じさせてもらいました。

自分達で考えながらしっかり取り組み選手達自身で勝ち取った優勝でした。

選手みんな、優勝おめでとう！最高のプレーと笑顔でした。

この優勝を自信に今後も頑張ろう！

感謝の気持ちを忘れないようにして下さい。

試合前のシュート練習では球拾いをしてくれたり、試合中はベンチから大きな声で応援してくれたり、得点の時には一緒になって喜んでくれたレッド・ホワイトの仲間達、そして家族。支えてくれた方々への感謝の気持ちだけは忘れないようにして下さい。

このような素晴らしい大会を開催して頂きました福島県都市公園緑化協会様ありがとうございました。

また来年も宜しくお願いします。

2日間応援して頂きましたご父兄の皆様ありがとうございました。

3チームとも選手達は自分の力を発揮し素晴らしいプレーを見せてくれました。そんな選手達を褒めてあげてください。

応援に来てくれたOB、OGのみんな、ありがとう！

皆の応援と協力のお陰で選手達は元気になり最高のプレーが出来ました。また機会があったら応援してあげてください。



#### 報告：渡辺コーチ（ホワイト）

私たち、ホワイトチームはT6男子3名+T6ガールズ2名+T6の5年生3名の8名で構成しました。今回のキーワードは「感じているか」。チームとしての約束事を試合前に全員で確認し試合に臨む。試合中に選手たちに問いかけた言葉は「感じているか？」。あとは、選手がそれぞれピッチ場で表現してくれていました。もちろん、勝負事ですから最終的には勝ち負けがあります。結果として負けることもあれば、勝つこともあるといった感じです。ただ忘れていけないことは、結果にとらわれないということでしょう。持てる力を出し切ったの負けなのか。逆に70%くらいの力での勝ちなのか。私が重視したいのは結果よりも課程。努力と結果が伴わないことは多々あります。大事なことは

邪念を捨て去りどれだけ打ち込めたのかだと思います。ホワイトのメンバーは2日間で6試合戦いましたが、どの試合も考え深い良い経験を積むことが出来ました。2日間をとおして選手たちに伝えたこと。それは自己評価を正しく行うこと。誤った自己評価は自分の可能性を潰してしまい、クリエイティブなプレーをすることが出来なくなります。自分を正しく捉えだしたホワイトのメンバーは頼もしくプレーしていました。今後に期待です。

6年生の皆さん、卒団まで残りわずかとなってきました。1日も無駄にすることなく次のステージへ向けた準備を進めていきましょうね！



### 報告：小松コーチ（レッド）

11月の21日22日の土曜日アーレ6年生は空港フットサル大会に参加しました。

この大会は設楽コーチの職場が主催している毎年 参加してスタッフ協力する大会です。

今回、私はアーレレッドを帯同しました。

このレッド、ポテンシャルこそ第一級品のモノを持っていますがなかなかスイッチが入らずスイッチ自体他人まかせになる時もありいつになったら入るのかと期待を抱かせるチームです。

チームとしてもアーレ理念にのっとり全員どこでも出来る贅沢な構成です。

選手達と協議の結果1日目はキーパーは日で任せて次の日は試合ごとに調整するようにし

ました。

チームキャプテンは、やはりリフティングを頑張った選手にお願いしましたがこの選手何を隠そう痛み上がりのオマケ付きで靭帯がのびているらしく所々で痛みがはしるかなり厳しい状態でした。

それでも本人と協議して本人はプレーを選択し頑張ってくれたものの2日目にはまさかのドクターストップあまりの痛みから骨にひび？みたいな話でしたが2日間休むことなく頑張ってキャプテンの仕事をまっとうしてくれました。

大人になって来た証拠です。

さて試合は？

と言えば1日目はそこそこのエンジンがかかった気がします。

サードギアをレッドゾーン手前まで引っ張りトップギヤを行ったり来たりと言う内容でした。それでもトップギヤではこれぞアーレ魂を見せてくれ、ドリブルからシュートや持ち上がりの絶妙なタイミングでの強いシュート、ゴール前でのガッツキからあきらめずボールを追い回すなどマズマズの展開でした。

ただしこれには訳がありコーチの私にやらされてとお膳立てが付きまわってしまいました。そろそろ小学校でも中学体験のタイミングに差し掛かり自分の人生を自分でプロデュースする年頃となって来ました。

やらされ感やお膳立てからはやく脱皮し大人の階段をきちんと捉えて登り始める準備をして欲しいと思います。

自分で自分の世界を持ってこれからは自分のフィールドを広げなくてはならずこの世界には親や私達外野の大人は入れません。

可能性と言う武器を持ってたくさんのフィールドを持って欲しいと思います。

そして2日目、出来れば上位リーグを目指して戦って来ましたが幸か不幸か下位リーグでの戦いとなってしまいました。

この下位リーグ Allez ホワイトも同リーグに参戦しておりこのリーグ決勝で戦うことを約束して決勝を目指しました。

したがってこの日最大の天王山は第2試合目の対富田戦とチームで捉えました。

実力を見比べてもレッドの実力がトップからハイトップに入れば決して見劣りするものでもないと考えました。

ただしレッド全員がキチンとギヤをハイトップに入れ続け自分自身に勝つことが出来ればと言う条件を克服出来ればの話です。

今までの戦いでも何とか誘導されギヤをトップまで入れて来ました。

ここからは本当に自分と向き合いもう1段入れると言う未知の領域です。

戦いに全身全霊で自分を賭けなければ向き合えない世界です。

正直レッドは自らこの体験をしたことはないでしょう。

6年生トップチームと言う括りであれば他選手に引っ張られたりしてはあるかもしれませ

ん。ハッキリ言ってそんな程度でしょう。

そして案の定試合自体はやや征服しているものの先取点は富田さんに傾きました。

ここからは本当の自分が試される審判の時間になります。

何かを賭けて戦うと言う自分と向き合わなければなりません。

ひとつでも甘いところや考えがあればそこに付け込まれ崩れ始めます。

非常に厳しい時間帯がチームレッドを呑み込みチームレッドの戦いとは別に時間は簡単にチームレッド選手達を裏切っていきます。

ただし裏切られれば裏切られるほど選手達は自らギヤをハイトップへとシフトチェンジしていきました。

そんな時に同点ゴールで試合を振り出しに戻し時間との信頼関係も振り出しとなりました。

ここから一進一退全身全霊を賭けて魂のやり取りをしてくれたと思います。

結果的には同点でゲームを終えることができました。

レッドのポテンシャルが包み隠さず発揮された瞬間でした。

おそらく拝見して頂けた保護者の皆様には彼らの何らかが伝わったと思います。

そしてそのトップギヤそのままにPK 戦まで挑むことが出来ました。

本当はレッド選手達に自分で蹴る順番まで管理させ勝利に向かうチームマネジメントなどもさせたかったのですが…

どうしても私達は決勝で Allez ホワイトと戦いたかったので私小松の方でマネジメントさせて頂きました。

そしてPK 戦も征して決勝に駒を進めることができました。

私自身このゲームの勝利には大変得るものがあり涙、涙、涙でした。

先ほども書きましたが選手達が伝えた何かを保護者の皆様忘れないでください。

彼らは紛れもなくハイトップに入り魂で戦ってくれました。

出来ればこの何かを心から応援しこれからも育ててもらえればと思います。

時には厳しい課題も課すことになるでしょう。

しかし彼らは絶対やりきれます。

私が彼らの魂に触れて分かり合えた結果です。

あきらめずをお願い致します。

そして下位リーグ決勝ある意味夢の同門対決です。

やりやすいようで大変やりづらい試合でした。

天王山を終え狙うは敢闘賞に手を掛けたことは確かでしたが勝負の神はそんな甘いものはありませんでした。

ハイトップもロー、セカンド、サード、トップあつてのギヤです。

逆にレッドのこれでもか！と悪いところが出たゲームでした。

勝負にも素直になれず時間にも見放され…私としては勝てる気がしませんでした。

人として勝負事には特段の敬意を込めなくてはならず…。



チャンスがなかった訳でもありません。一方的にやられた訳でもありません。  
むしろ…こちらが有利な条件さえ整っていた感もあります。  
結果的には敢闘賞を取り逃がしてしまいました。  
これは勝負の神、チームレッド選手達の人生の神が出した課題でしょう。  
フットサルと言うボールを蹴り合う括りで捉えるのではなく…  
2日間を通して本当にたくさん経験をすることが出来ました。これはきっと糧となりこれからを支えることは確かです。  
ただもっともっとたくさんの糧に対する学びが出来ていたらご褒美の敢闘賞が舞い込んで来たかもしれません。  
そして伝わった何か…。  
まだまだ頑張らなくてはなりませんね。  
私を含めて。  
こんな2日間を選手達とともに向き合えたこと幸せでした。  
ありがとうございました。  
これからも私達と一緒に選手達を応援して行ければと思います。  
また空港で戦えたたくさんのチームの選手、監督、コーチ、保護者の皆様ありがとうございました。  
来年もこの場所で素晴らしい戦いが出来たら幸いです。  
どうぞよろしくお願い致します。











